

検査値と画像データから読み解く 薬効・副作用評価マニュアル

吉村知哲, 岩本卓也(編)

宮崎大病院 教授・薬剤部長

池田龍二

包括的に臨床能力を高めたい薬剤師に お薦めの一冊！

くすりの専門家である薬剤師は、医薬品に関する医療安全を担保しながら薬の治療効果および副作用を適切に評価し治療継続につなげる役割がある。そのためには、薬の治療効果および副作用を正しく評価し、的確に対処することが求められる。しかしながら、悪性新生物、虚血性心疾患、糖尿病、精神疾患など疾患が多岐にわたり、科学の進歩で薬物療法も多様化・複雑化する中で、薬の治療効果や副作用を臨床検査値や画像データと関連させ適切に評価することは容易なことではない。

本書は、「薬の治療効果と副作用の評価項目」と「臨床検査・画像検査の評価ポイント」の2部構成となっており、医薬品を評価する上で必要な臨床検査値や画像検査を医薬品の有効性と安全性の観点から関連付けてわかりやすく解説している。

「薬の治療効果と副作用の評価項目」では、疾患に関連する薬剤と臨床所見、評価に必要な主な検査、評価のタイミングが記載されている。特に、本書では、臨床現場で確認すべき臨床所見、バイタルサイン、血液検査、画像検査などが薬効別に理路整然とまとめられており、治療の有効性・安全性を担保する上で大いに役立つ内容となっている。

また、「臨床検査・画像検査の評価ポイント」の項目では、血液一般検査、肝機能検査、腎機能検査、出血・凝固・線溶系関連検査、電解質検

査、糖代謝検査、脂質代謝検査、ホルモン関連検査、免疫・アレルギー関連検査、感染症検査、腫瘍マーカー・がん関連遺伝子検査、尿検査など各項目について、検査項目の特徴や病態との関連性とその意義・機序を含め、評価のポイントに関してわかりやすく記載されている。さらに、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、X線検査、血管造影検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、核医学検査などに関して基本的な考え方や病態との関連性が画像を含め具体的に明記されており、読者の知識・理解をさらに深めることで、薬物療法に関連した患者の症状・状況の把握および適切な対処方法について多職種で協議する際にも大いに貢献できる一冊である。

また、「薬剤管理指導記録の書き方」の項目は、薬効別に SOAP 形式で作成されており、実際に症状や検査値をどのようにとらえ記載するか、薬剤管理指導を行った際の記録作成時に参考になる点もたいへん魅力的で、包括的に臨床能力を高めたい薬剤師にお薦めの一冊である。



●B6 変型/頁 560/2022 年
定価：4,400 円
(本体 4,000 円＋税 10%)
[ISBN978-4-260-04881-1]
医学書院 刊